



十
端
為
辨
抄
中

5
2963
2



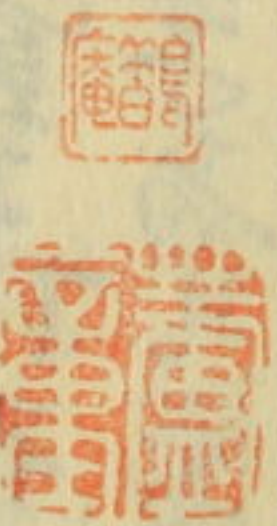
門へ 5
2963
巻 2



十論の辨折中

弟四段

渡部 和編



虚実、變、白馬、象道訓、よきしく、虚之の、實、
つ、天、地、自然、の、る、り、
揚、つ、皇、孫、異、い、り、
る、い、と、命、け、
名、と、重、く、
い、つ、り、も、
花、老、あり、
さ、地、と、
の、は、れ、
の、は、れ、

儒師のありといふ歴々の字を達し虚言と商人
の誠偽とありあり儒書師の表裏とあり
と云はれ文子の詞もあり中下とあり此の
より朝甫夕死の論あり世にやと此の
より儒書もその用あり大哉乎死也といひ
孔子にそととそつちね死生非今之急後自知
之とて儒の言の世にそととて明の因果
と偽をそと不知生則何知死と人今人の生以
たのちして明の死とありとせしめたりと
知あり秘して説きりと儒の言より後と秘と
さりとて師家の教もそと死の虚言とて不知
虚則何知實のといふ當時儒の言も虚と

ありんといふなりむと程子の生と死と論を
いひ小児夜間不説思とや多し儒師の生と死と
人といふ儒師の虚言とあると一は天道の虚
言とありと大ちの時と天地の未用と己用と一
小ちの時と一念の未生と己生をりはれと虚言
と誠偽ととれと此の動不動とて吾人の
意とありくと虚言といひ凡夫の言とありと誠偽
と子例と一歩の好悪とありと一とありと虚言の天
理と一と誠偽の人理とありとありと一虚言の
先後と撃石閃電の妻と一と早急の知不知の
さふいやられぬ知といふ不知といふ人をも一虚とあり
時と放逸の凡人とあり人の一實とあり時偏屈

る

の庸人なるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の
 の要とあると賢人たるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の
 此よりいふに虚々の用とあると賢人たるは虚々の
 家の秘密なりと虚々の用とあると賢人たるは虚々の
 あり虚々の用とあると賢人たるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の
 名利の用とあると賢人たるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の
 の寛大なるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の
 とするに虚々の用とあると賢人たるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の
 ちて耳とあると賢人たるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の
 るをわけて孔子の権子論と朱子程子の説
 とあるは権子論也取中者也とあるは孔子の
 中とあるは孔子の権子論也取中者也とあるは孔子の

當然とあるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の
 此のよき祖の孔夫子なり君子欲言_ス之見_レ信_セ
 也莫_シ善_キ乎先_ツ虚_ニ其_ニ内_ニ信_の一_の子_の當_レ
 ち虚中の虚とあるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の
 ありて虚々の用とあると賢人たるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の
 とするに虚々の用とあると賢人たるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の
 於空虚とあるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の
 一米のありて虚々の用とあると賢人たるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の
 あり朱子の一瓢の貧とあるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の
 ありて虚々の用とあると賢人たるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の
 儒の大神なるのありて虚々の用とあると賢人たるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の

變の有りありこれらに瞻前忽後の謬として
ある一誠は人の短命ありとて孔子の撰集
の虚言自在あるに返さくもあけなく
孔子の残念とおやとて一虚言の代文
或は管仲らと評して家残（子用）於旅日而無
憂色是知權命也事（カ）所射君通（カ）於憂
也一虚言の代文とて虚言の時一
權と變との別ちりぬとて補鑑とて
一虚言や孔子と偏居の親仁に仕さく誠
二程の比しとていふに一貫抄に知者
可與との二章とあつて子路とやうに
あれぬ頃權の二子に道の權謀ありとて

とていふるくの謀計ありとて論語の正權
けり原道の虚言ありとて人やれとて
一虚言とて儒術を在の系ゆとて一虚
言とて我家の一大よりて道一子の信と
一虚言とて律一戒とて論の大綱とて
言の虚言の憂あるとて一虚言に能言
世にちりとて一虚言とて一
勸懲先後 師説に勸善懲惡とて一
の教誡とのちりとて一教と誡とて二
の勸と懲との二用ありとて一
善惡の改めとて一善惡とて一
とて地獄とて一善惡とて一

善の道の情とこけり、用有るはけいとして
さしあし子路も進みいひやうさうさうと教誡い
詞の善見四討とある一—さうりな先後の詞と
さういれしき善のさうさういあれん教化のさうい
醫者の配劑と補浮の配とさうさういさうい危
うさうさう益氣湯とありさういさうい

孔子、牛刀 先後の太略と儒行の孔子の和と
舜の経考と鑑あれし子游と武城の一編と
大小の要とこさういさうい耳聞のさういさういと
誘いさういおのちねあれし孔子とさういさうい
—也たのちおと史記しけ殿の結文あり孔子
以厚子游羽所於文字子とありさういと今の朱喜集

註とせれぬの大し此結文も及るし例と我好
の塩梅とはげし夫子深喜のさうい子游以正
對しともさういさうい孔子とあやうしともさうい
け趣と茶話禪とも禪家の商量といさうい
さうい趙州の向答と僧向一物不將來時如何
州曰放下着僧曰已是一物不將來放下這什
麼州曰任麼則擔取去はてさういけ後も子游
さういさういさうい所近とはさうい
はけい一尺の節とちりんとさうい詞の要とさうい
人よの甲とんをさうい面くの自知とさういさうい
百人の疎産とさういと放さういさういけあり孔子
も趙州も合とさういゆるさういとさういさうい言語の

文とらゝるのり洋やまるとして一處とあらん
むらゝる一處とあらんまるとあらん一處とあらん
大らゝるのりやぞら師才の初徴も君父の
訓諫もあらんを居のなるとして一處とあらん
むらゝるのり師才の温勸もあらん一處とあらん
母必母固 一貫抄の四絶の論一儒の一は居せし
まゝのり一貫抄の末代の學者の異端とせらるる
一貫抄のり一貫抄のり一貫抄のり一貫抄のり
としてせらるる一貫抄のり一貫抄のり一貫抄のり
とらゝる一貫抄のり一貫抄のり一貫抄のり一貫抄のり
とらゝる一貫抄のり一貫抄のり一貫抄のり一貫抄のり
一貫抄のり一貫抄のり一貫抄のり一貫抄のり

一貫抄のり一貫抄のり一貫抄のり一貫抄のり
大らゝる一貫抄のり一貫抄のり一貫抄のり一貫抄のり
あらん一貫抄のり一貫抄のり一貫抄のり一貫抄のり
とらゝる一貫抄のり一貫抄のり一貫抄のり一貫抄のり
為^{トニカ}後^{トニカ}疾^{トニカ}固^{トニカ}也^{トニカ}と^{トニカ}言^{トニカ}ふ^{トニカ}一^{トニカ}再^{トニカ}後^{トニカ}一^{トニカ}非^{トニカ}敢^{トニカ}
一^{トニカ}仲^{トニカ}尼^{トニカ}不^{トニカ}為^{トニカ}己^{トニカ}其^{トニカ}也^{トニカ}言^{トニカ}ふ^{トニカ}必^{トニカ}信^{トニカ}行^{トニカ}不^{トニカ}必^{トニカ}
果^{トニカ}惟^{トニカ}義^{トニカ}所^{トニカ}在^{トニカ}也^{トニカ}言^{トニカ}ふ^{トニカ}一^{トニカ}再^{トニカ}後^{トニカ}一^{トニカ}非^{トニカ}敢^{トニカ}
時^{トニカ}の^{トニカ}よ^{トニカ}ら^{トニカ}る^{トニカ}一^{トニカ}再^{トニカ}後^{トニカ}一^{トニカ}非^{トニカ}敢^{トニカ}
垂^{トニカ}通^{トニカ}通^{トニカ}方^{トニカ}と^{トニカ}言^{トニカ}ふ^{トニカ}一^{トニカ}再^{トニカ}後^{トニカ}一^{トニカ}非^{トニカ}敢^{トニカ}
文^{トニカ}ち^{トニカ}ら^{トニカ}に^{トニカ}有^{トニカ}方^{トニカ}の^{トニカ}学^{トニカ}者^{トニカ}の^{トニカ}あ^{トニカ}ら^{トニカ}る^{トニカ}一^{トニカ}再^{トニカ}後^{トニカ}一^{トニカ}非^{トニカ}敢^{トニカ}
聖^{トニカ}人^{トニカ}と^{トニカ}は^{トニカ}言^{トニカ}ふ^{トニカ}一^{トニカ}再^{トニカ}後^{トニカ}一^{トニカ}非^{トニカ}敢^{トニカ}
一^{トニカ}再^{トニカ}後^{トニカ}一^{トニカ}非^{トニカ}敢^{トニカ} 春秋一文字

の爲に駁する家語の要通了とあけりかき
かく論語と虚言の鑑をんをれり中も陽貨
の二篇と論語一部の曲節より或は屏脈を
毛くあらんや將仕と時宜の孫言あり或は
牛刀と飽瓜の二章の詠美の諱の沖文より
子游より礼記の要用語より子路より文質の和
説と礼記の要用語より或は玉帛の措詞より
子の表裏とあり或は朱紫の措詞と論語の以雅
と移り或は魚言の釣詠より子貢
の辨入とあり或は楚辞の作病とあり
孺悲の虚言とあり或は食稻衣錦の
記をれり孔子の幾言あり

と世智辨とあり或は
の名も例し懲惡の過當あり或は
七十三子より七十三色の勸懲とあり
或は博奕の一章も例の措詞もあり
宰予の懲惡のほくもあれんを序のあり
んりや或は女子と四十一の二章のけい
の結文あれん仲り不孝の内の記より
けい後章の業様の嘆息ありん
るれん論語の二篇を大しれん
より何より意必固我なり
仲り或は景伯の虚言とあり
為夷徳可欺而不可侮とあり

天下の君とあるは、國々の虚とあるは、天下の所
とありは、れは、師とあるは、位階ありて、師の
位に稱されし、君と師とありて、位階ありて、
かゝる位階ありて、天倫の次第あり、或は、虚
は、師の言あるは、一國一城とあるは、或は、或
は、或は、虚の言あるは、それとあるは、女子
とあるは、けり、けり、と、儒の文、秘ありて、虚
は、虚ありて、倫ありて、誠は、虚の文、大騷
ありて、人あり、實とあるは、虚とあるは、同、人の
教は、人道とあるは、それとあるは、人面、歎ありて、
人面の、けり、けり、歎ありて、虚ありて、人面の
虚ありて、所以ありて、五倫とあるは、虚ありて、

けり、君とあるは、師とあるは、子、ぬら、今、いふ、天地、万物
あり、一カ一毛、虚ありて、それとあるは、けり、けり、けり、
天下し、ありて、けり、けり、孔子も、言ふ、ありて、家語
に、敬、叔、天、祚、の、返、り、ありて、乱、而、治、之、備、而、起、
之、自、吾、志、天、何、幽、乎、と、ありて、師と、天、道、の、理、と
ありて、けり、けり、儒の、一、道、と、あるは、斯、徒、の、非、
ありて、けり、けり、天の、實、祚、と、あるは、けり、けり、
論、語、に、天、道、ありて、けり、けり、天、道、と、あるは、けり、けり、
の、けり、けり、ありて、詩、に、宋、の、こと、ありて、民、可、使、由、之、不、可、
使、知、之、と、ありて、宋、の、例、の、けり、けり、けり、けり、
の、似、而、非、ち、り、や、舜、由、仁、美、行、非、行、に、美、や、此、語、
は、天下とあるは、けり、けり、けり、けり、けり、けり、けり、

孟子の自詔を違ふるやれ子に美とあり人として
 天下のまづもたれとある。師ある万民は皆其罰の
 と非とあつて天下と一故しあり。君の積柄し
 ありて天下と万民はゆるはる行儀とありむ
 して一夫令の次才より木鉄の喻しけり。せきれ
 周ふとも一鹿し御の言あるより魯の二国八百
 の言とあり。一擗の成王と天下の言あり。叔甥
 しての言あり。ありし言と一禄との天命ありて仰家
 してはと因果あり。一七也けりあり。れ子も御の言と
 あり。一やりの魯國の根相あり。ありの男女別誅之道
 不捨遺之三年而百姓正矣。何但魯國而已哉。難天下
 可争と定ふ。一け令の言と一減し天下しき。あり

一やりの例に美とあり。ありの言あり。御の言あり
 あり。一やりの孫の追従する利とあり。あり
 富むる言あり。一やりの言あり。論議の人此
 耳をさるる言あり。一やりの言あり。馬の鹿に
 あり。一やりの言あり。魯國の官禄あり。れれ
 七十年余君とあり。ありの言あり。利の言あり
 あり。一やりの言あり。子純子の言あり。一やりの言あり。馬の車
 の言あり。一やりの言あり。道建立の人あり。一やりの言あり。金銀の用
 あり。一やりの言あり。ありの言あり。れれ。孟子の言あり
 あり。一やりの言あり。ありの言あり。れれ。孔子とあり。あり
 あり。一やりの言あり。ありの言あり。れれ。ありの言あり
 あり。一やりの言あり。ありの言あり。れれ。ありの言あり

完備後井のじり詔といふことありてこれ
のちかゝる親の皇たるを困る論は孔子
の言にちかゝるをさしむ五帝の史記ありて
七傳書にちかゝるをね言あり他は井に
のちかゝるを庚申のおの轉にちかゝるを
象つらつらに子産の放魚のちかゝるといふ要人
の智恵をさしむるを例の似而大非ある
も重くと誠信の決断もなりしけ井に死生
のちかゝるを時あり或は君子可欺不可
困といふ論語の返答と辛子やちかゝる言と
ちかゝるを井にの有無をさしむるありて
死生の論とちかゝるをばたしめて世詞のいさか

也似即似是不是と子相似の論も言ふ
一とちかゝるを白馬赤馬と君臣の美
と父子の信實とに兩様の説ありを訓の大略
もちかゝる信實とちかゝるを同とちかゝるを
みらる素而不得と舞の文をちかゝる忠と美
とちかゝるを同とちかゝるを同とちかゝるを
も今も臆病のちかゝるを一とちかゝるの美
とあつていふ能言のちかゝるを忠とちかゝる
儒師のちかゝるのちかゝるを又倫のちかゝる
捷徑とちかゝるを信實とちかゝるを陰徳のちかゝる
て美とちかゝるを陽報のちかゝるを忠とちかゝる
賞罰のちかゝるをちかゝるをこれなり

其言やこれの諛言と云へて例の微中
とて了らるる

其實其虚 其後と例のさ地あり世の中れ人々を人
いあらるるなりいささく虚をたれ ぬき
かこしけぬし禪録の詞とありやうの地獄抱束
とてさうさう提はす地獄に在あり周觀の返
答さうさう一さう中まえに地獄も抱束し虚實
も善惡し心の所造ある女の皮中の娘 ちん
居虚行實 一對と對家の西女文やさうに
他の宗匠家より世詞と難しくさう以れを
實とあり虚とありさうと虚とさうと實と
後とて一さうのけりせむいさうと虚實

の人此返答に世間のめはけけ遠あり能清と
今日の世とさう一さう又倫と云へて實
のさちりらと夫妻のさちりらとさう人の
我妻ととりありむに我と夫妻のさうと
あり今日の虚とありさうと我のさうとあり
さうとをれと太福のありあり今日と我の
虚とありさうと倫とありさうとあり
夫妻の妻ありさうとありさうとあり
ありありとあり記し五倫のさうとあり
さうと指しありさうとありさうとあり
さうとありさうとありさうとあり
是非親疎 世一對と世のさうと是非

友人と云るべく親疎の成と云るべしけし
白馬の金言ありきるは是非の証し子に好
は所しと云るべしけしけしけし是非の成
是ちる非いふる非ちる非いふる非ちる
は証と儒仲の連続はあはれい法おの論
ちちちあはれい人間と云る非ちる中し
し是ちる時あり親疎ははげしあはれい
とやと云はれくの二道しけしけしけし
時更の代と建ちしけしけしけしけしけし
と云はれけし儒はあはれいけしけしけし
と古人の鑄形し今と云はれけしけしけし
建ちしけしけしけしけしけしけしけし

一巻しけし八宗九字しけしけしけしけし
い之師のほれくの讃しけしけしけしけし
の証しけしけし親と子の塵と云はれけし
ちちちあはれいけしけしけしけしけしけし
と云はれしけしけし親し子と云はれけし
のちちちあはれいけしけしけしけしけし
と云はれしけしけしけしけしけしけしけし
との差ふありけしけしけしけしけしけし
信ちちちあはれいけしけしけしけしけし
の師近しあり美言しけしけしけしけし
けしけし有之聖の明なきありけしけし
けしけし美言しけしけしけしけしけしけし

乃其也

十六

功成而不居と云々と親疎のらわらざるは
い徳の一子ちり人さうにけしきふと云ふは
臣の美に信交と云く父子の信交に美に
と云く仲と過さねるはよくと云く
及りぬるは一子の喜怒哀の天のわらわら
いり三事と人わらわら又偏と云ふは親疎
虚交のあつたは世をさく夫婦の交違
にさくは二虚交と云く人あはれは親子
兄弟の信をさくは信と云くは父子の
親智と云ふは論語の和同れ節と云く孔子の
執事暗と云ふは一も世にわらわら美の
ふれは和と云く私の交と云くは親と云く

けふの差ふは白馬の教誡のさ用より信
仰も従ふは仲ふ微中し解紛しこれ
の訣言し信用と云く

仁義好惡 一貫抄し此論ありに多し好惡の
善と云ふは齊の善仲より二君より之と
孔子論語しちち好むは毅の仲夷と云ふ
仁と云ふは仲よく論語しちち好むは善と
仁美の用と云ふは仁を善と云ふは善と
く美と云ふは善と云ふは善と云ふは善と
仁を善と云ふは善と云ふは善と云ふは善と
ありは善と云ふは善と云ふは善と云ふは善と
善人の善と云ふは善と云ふは善と云ふは善と

可々虚もなきと云ふこと應與所任の心と
はたふもやちたれり一の教如孔子は成る
のついでにその神がれもや世中の神をたはら
しく傳書とも傳授せしむるあり

傳曰

言説、表裏、けいご中と申す後の言説の表裏的
とも多しむるの教あるものと云ふこと
儒仏のおもき巻も表の一方よりたはら
も裏の一方とある所の文字のうらみは
りもるくたすのきれちり博子のくも
向ふ一は一文不通の能く神と云ふも
此深かに神と云ふ文字の儒と云ふも

耳と云ふも一巻の表と云ふも同とぬ
て一巻の裏と云ふも同とぬ言説の表裡
の表と云ふも一巻の裏と云ふも同とぬ
氣はるる小人之言有、同乎君子者、不可察
と云ふも一に君子、以行言、小人、以言言、と云
夫子の返答るる例の表と云ふも、孔子の道
子思の二子と察の二子と云ふも、作常の二子と
いふも、虚なり、ちりある言説の察も、察へ自己
の境極ともたはらぬ、一箇十知の心と云ふも、
迂詐之真言、持るる心、二句と云ふも、虚實の
虚實、あれも、たはらぬ、虚實、二句と云ふも、
の虚實、あれも、たはらぬ、虚實、二句と云ふも、

何れと云ふ一も虚言ありも言ふ虚言
も尋常と云ふ事とあり付よる一或は詐
の真言と云ふ事と論詔と牛刀の戯ありれよの
詞と云ふ詐の戯と云ふ一夜の時を言ふのと
子爵と子文のゆけと云ふと云ふ事と云ふ事
或は真言の詐と云ふと法老の角権頭と
あり和歌の詞と云ふと今やと云ふと云ふと
の真言と云ふ事と云ふと八万の聴と云ふ事
の云ふと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
虚言の虚言と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
も云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

説くことあり

識文の傳 識文と云ふ事と未来記あり海と云ふ事と虚
の危かき事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
大臣と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
與と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
ちらと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
の危かき事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
子産と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
政の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
相濟政是以和と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
いと時と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

疾く疾くとあつてあつてゐる儂儂自在のあり方
次論 師は、次方の之後とやらをきく、
「新と、子と、遠
圍ふふれて、年とをきく、
他人あり、名をたれ、
の僧愛し、好醜の次あり、
儒書二面 按るに、師あり、父あり、
孔子は、
と儒師の勸懲とも、
孔子の上あり、
抑と、
は、
固とせ、
権を自在の方便あり、

あふ、
か、
詩、
和音に、
と、
の、
と、
あ、
そ、
あ、
膝、

むらりり秋りまらばる連統のちと詞
してつれも暮まら暮秋とらる今んかの
子と流のあはれとほけりこあらめ可作
後流あともせらるえや流あはれのこととくあて
他流之連きとけりあはれと流行類
とあらば 早まらるる流の論也

連歌、不知 西家同流をてし連流の扱ふる能
轉物、則同如来とて子孫文といふて妻化自
在のよしとてらるる女と物と物とらるる物と物を
らるる差ふありらるる連流とてらるるまの言ふ
もおの言と辨とる仰の物と物とらるる
俊和合の流ありはと流とらるるらるる

言も物と一はれし流あはれと物とらるる
あはれ連流とてらるる流とらるる
後らるるやふらるる流の所とあらば

耳目明暗

白馬文章訓に能流とて目と
と隔てらるる流とらるる流とらるる
くはれらるる流とらるる流とらるる
人の目とらるる流の流とらるる流とらるる
目とらるる流とらるる流とらるる流とらるる
ありらるる流とらるる流とらるる流とらるる
上の目とらるる流とらるる流とらるる流とらるる
耳目とらるる流とらるる流とらるる流とらるる

白馬文章

つらんと才一ノ意の地極とてなれ才二ノ身は
子文とて山一ノうの地極の志し不却と
年月の節と諺とあるとて一合の地極の
海ノ年月のの晴とて文の教不付とて
才一ノ身とて一合の地極の志し不却と
意一とて一合の地極の志し不却と
何のりとも人の身とて一合の地極の志し不却と
神心ありとて自暴自棄の心とて一合の地極の志し不却と
一又之とて一合の地極の志し不却と
言法の上の作ちり合
一字一點 掃きりた象物の地極とて一合の地極の志し不却と
子二子あり一合の地極とて一合の地極の志し不却と

とあると一合の地極の志し不却と一合の地極の志し不却と
物りむげと馬ノ居とて一合の地極の志し不却と 或人の三カ
一合の地極とて一合の地極の志し不却と一合の地極の志し不却と
り何とて一合の地極の志し不却と一合の地極の志し不却と
一合の地極とて一合の地極の志し不却と一合の地極の志し不却と
とかくるちとて一合の地極の志し不却と一合の地極の志し不却と
一合の地極の志し不却と一合の地極の志し不却と一合の地極の志し不却と
一合の地極の志し不却と一合の地極の志し不却と一合の地極の志し不却と
いかにせすらとて一合の地極の志し不却と一合の地極の志し不却と
むげと一合の地極の志し不却と一合の地極の志し不却と一合の地極の志し不却と
さゆのちとて一合の地極の志し不却と一合の地極の志し不却と
らと一合の地極の志し不却と一合の地極の志し不却と一合の地極の志し不却と

あんに例の事なると時習に聞而毎有新得
則可^レ以^レ爲^レ人師^レする何と云新し得たる
論語の多識と云うべき耳聞の字との
人の師と云うは子思とをさしきりてあ
らうたけ詠と常ある人の知と授く人よある
のいふにせらるる何と云うらあれた人の
と云うにせらるる新と云ふも感と云い
茶と飲むおの何と云うも感と云ふの
はあの変に應^レてと云うと云ふはあ
あらう事と云ふと毎の師と云うはあ
の師と云ふはあは師と云ふ人の師と云ふ
師と云ふの師と云ふはあは師と云ふ人の師と云ふ

え世の強ちと云うて節守の麴塵心之疾
の如き心塵心はあは師と云ふ人の師と云ふ
人と云ふはあは師と云ふ人の師と云ふ
はあは師と云ふ人の師と云ふ人の師と云ふ
と云うて、その時と云うはあは師と云ふ
事とおし言はるとおしはあは師と云ふ

才六段

曲節地 遺稿の師説と曲節地のと辨を向作し
ありて趣向といふはあは師と云ふ人の師と云ふ
節と對し自在ちち地と云ふはあは師と云ふ
し、月次といふはあは師と云ふ人の師と云ふ

い佛性の子をまきし道はとせりあは
あし道といらちるありし知者能自起と
例の表裏とまかぬいしやせぬ内はとんら
しうたふを仁義と道の實しん禪のわ
強論とけの感しん事まんと曲事の法と
ましんやらしん道への家とやしん
のら便ちしん世とせら商人めしん
とらしん道と建まのちやま
すまやれしの子とせしん一柱のま
らせらしん一紙の店とせしん辯
家の高買らちんとやそとをさふの
禪との寂實しん一とせしん

佳あくと辯とつねちよ十年の地とせしん
所くしとよまよりし撰事一の曲
はらとせし世界の首とせし
とよりあありしと一斬一斬
所と所とせし一紙あるし例の
て所ありしと後とせし

道心 持するに心證をいふ字と對するに
の詞をいふをいふしん論証しん
有恒人とせしん君子善人とあはし
つれの善人恒とせしん孔子の表裏と
おやとせしん世のいふとせしん

の表裏と

世の

と對し急と對する字數とすはたしむ言
六言ふかきしむ或るにむもむも或るハ
ともハハとも前長後短の拍子とある一とあり
とはそのみせしむて文章のハハある語路よ
奇偶の用とされ凡論をたぬくハとあれし和音
ハハの拍子しむてまに拍子の雅俗とすまらし
はれしむと漢魏の間より本唐の世も和ホえ
中れし趙宋の比よりまらしむてあはくと禪宗の
疏類し用ゆはらりと文法しむらりあはとあは
ま格と王勃の滕王閣の文勢もさるしけあ
能清所と流めし達しハの凡骨あるや文章
ハ禪宗の三處をまららしむ

